西南学院大学　人間科学論集　第4巻　第2号　　19－35頁　2009年2月

大学生の呼びかけ語の研究

田　中　孝　志

A Study on Undergraduates' Forms of Address.

Takashi Tanaka

問題

ことばはさまざまな理由に基づいて使い分けられる。このことは，逆に言うと，ことばの使われ方を分析することを通じて，その時の話し手の思考や感情を理解する手がかりを得る可能性があるということを意味する。

このような視点からことばの表現形式に関する研究が進められているが，その中でも興味深いのは人が自分や他者，あるいは第三者をどのように表現するかという問題である。これは「呼称」（岡本, 2006）と総称されることばであるが，鈴木（1973）はこの中で話し手自身を指すことばを自称詞，聞き手を指すことばを対称詞，さらに第三者を指すことばを他称詞と呼ぶことを提案している。

この呼称の問題が興味深いのは，既に述べたように，これらがさまざまな心理的判断の結果として使い分けられるからである。たとえば，鈴木（1973）は，対称詞が話し手と聞き手の地位関係にもとづいて使い分けられると指摘しているし，Knapp *et al.*（1980）は，対人関係の親密さの程度と用いられるコミュニケーションの形式が関連し，関係が親密であるほど，コミュニケーションの表現形式が個人的で，同期的であると認識されることが多くなることを明らかにしている。Knapp *et al.*（1980）は，さらに，青年期以下の年齢の人は，中年以上の人と比べるとコミュニケーションにおいて個人的，同期的であると知

覚しやすいこと，また女性同士あるいは男女間の関係においての方が男性同士の関係の中でのコミュニケーションより個人化されたコミュニケーションが知覚されやすいことを明らかにしている。

また，Feshbach & Sones（1971）は，女性の友人関係が男性の友人関係よりも親密度が高いとともに，排他性も強いことを指摘している。

この問題に関しては，発達心理学的あるいは社会心理学的観点からも検討が行われている。

三島（2003）は，小学校3年生～6年生を対象に児童同士の呼びかけ語を調査し，集団内の勢力と呼びかけ語が関係あること，またそれらの関係の仕方が男児と女児では異なることを明らかにしている。男児の場合，他の児童から集団内での当該男児の勢力が強いと評定された場合には，「～くん」あるいは「～ちゃん」と呼ばれるが，勢力が弱い児童であると判断された場合には呼び捨てにされる傾向がある。女児の場合には，勢力が強いと認識される女児は「あだな」で呼ばれる傾向があるのに対して，勢力が弱いと見なされる女児は「～さん」と呼ばれる傾向がある。

上記の諸点をまとめると，年齢や性別，あるいは集団内勢力や成員間の親密度などに応じて呼称が使い分けられることによって，自分の感情や相手に対する見方を示し，また相互の社会的距離を適切に維持しようとしているということができる。

本研究は，大学生を対象とすることによって，三島（2003）が児童に関して明らかにしたような呼称の使い分けがより年長である青年の場合にも認められるかどうかを明らかにするとともに，そのような呼称の使い分けに関して青年自身がどのような感情をもつかを検討する。これらのことを明らかにすることによって，青年期にある大学生が自分の周囲にいる重要な人々とどのように接することを適切であると考えているかを明らかにするのが本研究の目的である。

方法

調査対象者　大学生128名に対して質問紙を配布し，そのうち回答者は121

表 1　使用された質問項目

【1】あなたは，同性で同年輩の友人に呼びかける時，どのような呼びかけ方をしますか。
【2】あなたは，異性で同年輩の友人に呼びかける時，どのような呼びかけ方をしますか。
【3】あなたは，同性で年上の友人（先輩など）に呼びかける時，どのような呼びかけ方をしますか。
【4】あなたは，異性で年上の友人（先輩など）に呼びかける時，どのような呼びかけ方をしますか。
【5】あなたは，同性で年下の友人（後輩など）に呼びかける時，どのような呼びかけ方をしますか。
【6】あなたは，異性で年下の友人（後輩など）に呼びかける時，どのような呼びかけ方をしますか。
【7】あなたは，恋人または非常に親しい異性の人に呼びかける時，どのような呼びかけ方をしますか。
【8】あなたは同性で同年輩の友人を呼び捨てにすることに対して，どのように感じますか。
【9】あなたは同性で同年輩の友人から自分が呼び捨てで呼ばれた時，どのように感じますか。
【10】あなたは異性で同年輩の友人を呼び捨てにすることに対して，どのように感じますか。
【11】あなたは異性で同年輩の友人から自分が呼び捨てで呼ばれた時，どのように感じますか。
【12】あなたは同性で年上の友人を呼び捨てにすることに対して，どのように感じますか。
【13】あなたは同性で年上の友人から自分が呼び捨てで呼ばれた時，どのように感じますか。
【14】あなたは異性で年上の友人を呼び捨てにすることに対して，どのように感じますか。
【15】あなたは異性で年上の友人から自分が呼び捨てで呼ばれた時，どのように感じますか。
【16】あなたは同性で年下の友人を呼び捨てにすることに対して，どのように感じますか。
【17】あなたは同性で年下の友人から自分が呼び捨てで呼ばれた時，どのように感じますか。
【18】あなたは異性で年下の友人を呼び捨てにすることに対して，どのように感じますか。
【19】あなたは異性で年下の友人から自分が呼び捨てで呼ばれた時，どのように感じますか。
【20】あなたは，恋人または非常に親しい異性の人を呼び捨てにすることに対して，どのように感じますか。
【21】あなたは，恋人または非常に親しい異性の人から自分が呼び捨てで呼ばれた時，どのように感じますか。
【22】もしあなたがアルバイト先の上司から呼び捨てで呼ばれた時には，どのように感じますか。

名であったが（回収率は 94.5%），個人属性に関する記述がない回答が 1 名分あったので，分析対象から除外した。したがって，分析対象者は，120 名（うち，女性 96 名，男性 24 名）であった。分析対象者の平均年齢は，女性 19.8 歳（19〜22 歳），男性 20.7 歳（19〜24 歳）で，学年は，女性の場合は，2 年生 90 名，3 年生 6 名であったが，男性の場合には，2 年生 18 名，3 年生 5 名，4 年生 1 名であった。

調査項目　質問紙の調査項目は全部で 22 項目であり，それらの項目は表 1 に示されている。これら 22 項目のうち，7 項目が先輩・同輩・後輩の友人（同性・異性の両方を含む）にどのような呼びかけ方をするかを問う項目であり，これらの項目に関する回答は，（1）さん付け，（2）くん付け，（3）ちゃん付け，（4）呼び捨て，（5）名前を呼ばずに，「ねえ」とか「おい」など注意を喚起する声を出す，（6）何も言わずに肩をたたくなどの行動で注意を喚起する，及び（7）その他（自由記述）の合計 7 項目の中から最も良く該当する選択肢をひとつ選択する方式であった。さらに，これらの 22 項目のうち，12 項目は上記の友人たちへ自分が呼び捨てを用いて呼びかけた時にどのような気持ちになるかということと，逆に，それらの友人から自分が呼び捨てで呼びかけられた時にどのような気持ちになるかを尋ねる質問項目で，それらの項目への回答は，（1）無礼である，（2）親しみがわく，（3）別に何とも思わない，（4）その他（自由記述），の 4 選択肢から最も良く該当する選択肢をひとつ選択する方式であった。さらに，全 22 項目の中には，恋人（または非常に親しい異性の人）を対象に自分が呼び捨てを用いて呼びかけた場合と逆に自分が呼び捨てを用いて呼びかけられた場合の気持ちを問う項目が 2 項目とアルバイト先の上司から呼び捨てを用いて呼びかけられた場合の気持ちを尋ねる項目が 1 項目含まれていたが，それらへの回答方式は友人の場合の方式と同じであった。

なお，実際の質問紙にはこれら 22 項目の後にダミー項目 8 項目が追加記載されていたが，ここでは関連性がないので，これらの項目については表 1 には表示されていない。

手続き　調査は，大学の授業の最終回終了後に「大学生の会話行動の研究」の表題のもとに実施された。受講生に対して，調査の趣旨の説明と協力の依頼が行われ，全員に質問紙が配付された。配付の際に，調査は任意であるので，必ずしも提出しないで良いこと，提出する際には無記名で行い，添付の封筒に入れて提出することが求められた。スケジュールの関係で，質問紙への回答と質問紙の回収はその場では行われず，後日（期限は 1 週間以内），各自で回収ポストに持参することが求められた。

結果と考察

呼びかけ語の分析　質問1～7への回答を「さん付け＋くん付け」,「ちゃん付け」,「呼び捨て」,「その他」の4カテゴリに分類し，その度数の分析を行った。質問1～7への回答は，本来は「さん付け」,「くん付け」,「ちゃん付け」,「呼び捨て」,「ねえ」,「おい」などの注意喚起の発声，および何も言わないで肩をたたくなどの行動的注意喚起行動,「その他（自由記述）」の7選択肢から選択するものであったが，これらのうち,「さん付け」と「くん付け」は相対的に丁寧な呼びかけとしてひとつのカテゴリにまとめ,「ねえ」,「おい」などの注意喚起の発声，および何も言わないで肩をたたくなどの行動的注意喚起行動は，呼びかけ語の含まれない呼びかけとして共通性が高く,「その他（自由記述）」の回答ととも内容的類似性が高かったためにこれらの3選択肢をひとつのカテゴリにまとめて,「その他」のカテゴリとした。なお，各質問への回答ごとに不適切な回答の数が異なっていたので，実際の分析にかけられた人数は分析ごとに異なり，必ずしも女性96名，男性24名とはならない。

呼びかけ相手の年齢および性別と呼びかけ方の違いの関係　これについての結果は，表2に女性回答者の分が，表3に男性回答者の分が示されている。

女性の回答者の場合，同性の呼びかけ相手に関しては，相手が同年配である時には「呼び捨て」が最も多く（59%），次いで「ちゃん付け」（32%）の順位となり，これら2者で91%になるが，相手が自分より年長者である場合には

表2　女性の場合の呼びかけ相手の違いと使用する呼びかけ語の関連

相手	呼びかけ方			
	「さん」＋「くん」	「ちゃん」	「呼び捨て」	その他
同性・同年配	2	29	54	6
同性・年長	72	1	0	17
同性・年少	9	60	20	1
異性・同年配	72	0	11	5
異性・年長	79	0	0	16
異性・年少	68	2	19	3
恋人	37	6	29	17

表 3　男性の場合の呼びかけ相手の違いと使用する呼びかけ語の関連

相手	呼びかけ方			
	「さん」＋「くん」	「ちゃん」	「呼び捨て」	その他
同性・同年配	8	1	11	4
同性・年長	24	0	0	0
同性・年少	4	1	19	0
異性・同年配	12	7	4	1
異性・年長	24	0	0	0
異性・年少	5	9	10	0
恋人	2	4	14	3

「さん付け＋くん付け」が圧倒的に多く（80%），次いで「その他」（19%）となる。これに対して，相手が自分より年少者である場合には，「ちゃん付け」が 67%，次いで「呼び捨て」が 22%でこれら 2 者の合計は 89%となる。これらの事実は，女性の回答者が，相手が同性である場合には，相手の年齢によって呼びかけ語を変えるという行動傾向を明確に示すものであり，相手の年齢と呼びかけ語の種類の関連性を χ^2 検定した結果，その関連性は統計的に有意であった（$\chi^2(6)=242.93, p<.01$）。相手が同性で同年配である時には「呼び捨て」と「ちゃん付け」が圧倒的に多くなるのは相手が同性で年少である場合と同じであるが，順位が逆転し，「呼び捨て」が最も多い。逆に，相手が同性で年少である場合には「ちゃん付け」が最多になる。それに対して，相手が同性・年長者である場合には「さん付け＋くん付け」が単独で 80%となり，同年配や年少者の場合よりも特定の呼びかけ語に収束する確率が高い。また，「その他」が同年配や年少者が相手の場合には非常に少ないのに対して，年長者の場合には 19%とかなり高い数値になるのは，年長者に呼びかける場合には「さん付け＋くん付け」を用い，相対的には丁寧な呼びかけ語を使うか，あるいは行動や発声によって相手に自分に気づいてもらい，相手からの声かけを期待するという行動規範が成立しているためではないかと思われる。

呼びかける相手が異性である場合の結果も表 2 に示されている。相手が同年配である場合には，「さん付け＋くん付け」が最も多く（82%），次いで「呼び捨て」（13%），相手が年長者の場合には「さん付け＋くん付け」が最も多く

(83%)，次いで「その他」(17%) となっている。また，相手が年少者である場合には，やはり最も多いのは「さん付け＋くん付け」(74%) であるが，次に多いのは「呼び捨て」(21%) となっている。異性が相手の呼びかけ語の使用については，相手の年齢に関わりなく「さん付け＋くん付け」が最も多くなるという点では相手が同性の場合とは異なる傾向を示しているといえよう。また，相手が同性である場合には，相手が同年配である時には，「呼び捨て」が最も多く，相手が年少者の場合には「ちゃん付け」が最も多いという結果であったのに対して，相手が異性である場合には，同年配で 13%，年少者で 21%となっており，年少者の場合の「ちゃん付け」が非常に少ない（２%）という点においても相手が同性の場合とは異なる傾向を示しているといえよう。これらの結果は，女性が呼びかけ語を使用する場合，相手の性別によって適切と考える呼びかけ語が異なるという考えをもっており，相手が異性，すなわち男性である場合には，同年配であろうと年少者であろうと「呼び捨て」や「ちゃん付け」ではなく，「さん付け＋くん付け」で呼ぶことが適切な行動であるという行動規範をもっていることを示している。これに対して，相手が同性，すなわち女性である場合には，「呼び捨て」や「ちゃん付け」で相手に呼びかけることが認められていると考えており，おそらくはそれによってより親しみを表現できるという考えを表現しているのではないかと思われる。

ただ，相手が年長者である場合の行動規範は共通しており，同性であろうと異性であろうと圧倒的に「さん付け＋くん付け」という丁寧な呼びかけ語を使うのが適切と考えており，そうでなければむしろことばではなく，発声や行動によって相手に自分の存在を気づかせるのが適切な方略であると考えていると思われる。

女性回答者の回答について，呼びかけ相手の性別と呼びかけ方の違いの関連を χ^2 分析すると，呼びかけ相手が同年配の場合は，相手の性別と呼びかけ方の違いの関連が有意であった（$\chi^2(3)=123.74$, $p<.01$）。これは呼びかけ相手が同性の時には「呼び捨て」が最も多く（59%），次いで「ちゃん付け」(32%) であるが，相手が異性の場合には圧倒的に多いのは「さん付け＋くん付け」(82%) で，次いで「呼び捨て」(13%) であり，上に述べたように，女性の回

答者が相手の性別に応じた呼びかけ方をすることが適切と考えていることを示している。ただし，相手の性別に応じた呼びかけ方の使い分けという基準は常に用いられるわけではないことは，呼びかけ相手が年長者の場合の性別と呼びかけ方の違いの関連を検討するχ^2検定の結果に示されており，ここではχ^2検定の結果は関連なしであるが，それは呼びかけ相手の性別にかかわらず，年長者に対しては「さん付け＋くん付け」の呼びかけ方が適切であると考える人が圧倒的に多い（相手が同性の場合で 80%，異性の場合で 83%）からである。呼びかけ相手が年少者の場合には，期待度数 5 未満のセルの数の関係でχ^2検定ができないが，傾向としては，相手が同性の場合には「ちゃん付け」が最も多く（67%），次いで「呼び捨て」(22%）となっているのに対し，相手が異性の場合には，2 番目に多いのが「呼び捨て」(21%）であるのは同性の場合と同じであるが，最も多いのが「さん付け＋くん付け」(74%）である点は異なっている。これらの結果もまた，既に述べたように，女性の回答者が呼びかけ相手の性別と年齢に応じて適切な呼びかけ方が異なると考えていることを示している。

では相手が「恋人」という非常に親しい関係にある場合にはどのような呼びかけ方が適切であると考えているかをχ^2検定を用いて検定したところ，呼びかけ方に偏りがあることが明らかになった（$\chi^2(3)=24.93$，$p<0.1$)。最も多いのが「さん付け＋くん付け」(42%）であり，次いで「呼び捨て」(33%）となっているが，これは女性の場合，「恋人」という非常に親しい間柄の相手であっても丁寧な呼びかけ方が適切であるという考えの人が多いことを意味すると同時に，それとは反対の傾向である「呼び捨て」を適切であると考える人がかなり多いことは，親しい間柄であれば呼びかけ方はかなり乱暴でも良いと考えていることであり，女性の異性間の対人関係のあり方についての考えが変動していることの表れかもしれない。

さて，男性の呼びかけ方について分類した結果は，既に述べたように，表 3 に示されている。全体の人数が少ないためにχ^2検定は使えないケースが多いが，参考として見ていくことにする。

呼びかけ相手が同性の場合，同年配者に対しては「呼び捨て」が最も多いが

(46%),「さん付け＋くん付け」も 33%と比率としてはかなり多く，この点では女性の場合と異なっている。女性の場合には「呼び捨て」が最も多い点では共通であったが，比率的には 59%とより明確な傾向を示していた点と 2 番目が「ちゃん付け」であった点が異なっている。男性の回答者が女性と異なっているのは，呼びかけ相手が年少者の場合も同じで，男性の回答者は「呼び捨て」が 79%と圧倒的に多かったが，女性の場合にはむしろ「ちゃん付け」が圧倒的に多く（67%），次いで「呼び捨て」(22%）であった。ただ，呼びかけ相手が年長者である場合には，男性の回答者の呼びかけ方は全員が「さん付け＋くん付け」であり，この点はほぼ女性回答者の場合と同様であった。ただし，女性回答者の場合には，発声や行動による注意喚起という方略が 19%程度あったので，完全に男女が同じ傾向を示したとはいえない。

呼びかけ相手が異性の場合，相手が同年配の場合には最も多いのが「さん付け＋くん付け」(50%）であり，次いで多いのが「ちゃん付け」(29%）であったが，女性回答者の場合には「ちゃん付け」を指定した人はなく，「さん付け＋くん付け」が 82%であったことを考慮すると，通常は年少者や「かわいい」と思う人に対して使用することが多い「ちゃん付け」を相対的には多く使う傾向があるといえよう。

相手が異性で，年少者の場合に最も多い呼びかけ方が「呼び捨て」(42%）である点は，さらに女性回答者の場合と異なっている。女性回答者の場合には，「呼び捨て」も 21%あるものの，最も多いのは「さん付け＋くん付け」で，74%に達している。男性回答者の場合には，第 2 位が「ちゃん付け」(38%）であり，1 位の「呼び捨て」と非常に近い数に達していることは，女性回答者の場合と異なっており，非常に近しい関係に限定された呼びかけ方あるいは乱暴といえる呼びかけ方（呼び捨て）を用いるか，年少者あるいは「かわいい」と思う人に対して使用することが多い「ちゃん付け」を用いる傾向があることは異性の年少者に対する姿勢がまさにそのようなものであることを示しているといえよう。男性の回答者の場合，同じ年少者に対するものであっても，同性の年少者に対しては，圧倒的に多くが「呼び捨て」(79%）を選択していたことと対照的である。

ただ，相手が異性であっても年長者に対する適切な呼びかけ方に関しては，女性回答者の場合と全く同じ傾向を示しており，全員が「さん付け＋くん付け」を選択している。

女性回答者の場合と同様に，呼びかけ相手の性別と呼びかけ方の違いの関連という視点からデータを分析してみると，呼びかけ相手が同年配である場合には同性の場合にも異性の場合にも回答が別れるという点では共通しているが，別れ方が性別により異なっている。相手が同性である場合には，「呼び捨て」(46%)，「さん付け＋くん付け」(33%）の順番になっているが，相手が異性である場合には「さん付け＋くん付け」(50%)，「ちゃん付け」(29%）となっている。相対的には，同性に対してやや荒っぽい，見方によっては親しみを込めたといえないこともない，呼びかけ方を使う傾向があるのに対して，異性に対しては丁寧な言い方を用いる傾向があるのは女性回答者の場合と共通するものの，女性回答者であれがむしろ同性の相手に対して向ける「かわいげな」呼びかけ方をする傾向は対人関係のスタンスの違いを反映したものであると思われる。

呼びかけ相手が年長者である場合には，女性回答者の場合と同じ傾向がもっとはっきりと現れており，全員が「さん付け＋くん付け」を選択している。

相手が年少者である場合には，同性の相手に対しては圧倒的に多く（79%）が，「呼び捨て」を選択しており，女性回答者の多く（67%）が「ちゃん付け」を選択していた点とは大きく異なっている。これは男性同士の対人関係のあり方と女性同士の関係のあり方の社会的違いを反映したものと考えられる。異性の年少者に関する呼び方も女性回答者とは異なっており，女性回答者が「さん付け＋くん付け」が最も多く，74%であり，次いで「呼び捨て」が 21%であったのに対して，男性回答者の場合には「呼び捨て」が 42%で，「ちゃん付け」が 38%と回答がほぼ二分されている。この結果もまた，同年配の相手の場合と同様に，男女間の対人関係のスタンスの違いを反映したものであると思われる。

では，男性回答者の場合，非常に親しい関係にある「恋人」に関してはどのような呼びかけ方を用いるかを見てみることにする。男性回答者の場合には，

61%が「呼び捨て」を選択し，「ちゃん付け」が 17%，「その他」が 13%，そして「さん付け＋くん付け」が 9 %という結果を示している。これは相対的には「呼び捨て」を使う人が他の呼びかけ方を大きく引き離しているが，他の呼びかけ方の比率はあまり変わらないことを意味している。女性回答者の場合にも「呼び捨て」が 33%あったが，最も多かったのは「さん付け＋くん付け」であった（42%）ことを考えると，男性回答者は女性回答者よりもやや「恋人」に対する呼びかけ方が荒っぽい傾向があるといえるのかもしれない（$\chi^2(3)=16.13$, $p<.01$）。

自分が「呼び捨て」をした場合の感情　特定の相手に対して「呼び捨て」という社会的には親密な関係や目下の人に対してのみ限定的に使用が許容されている表現を自分が用いた場合にはどのような気持ちを感じているか，また，その逆に特定の相手から「呼び捨て」された時にどのような気持ちを感じるかを質問 8 〜質問 22 によって検討した。回答の選択肢は，「無礼である」，「親しみがわく」，「別に何とも思わない」，「その他」の 4 つであり，この中から自分の気

表 4　呼びかけ相手別「呼び捨て」行為についての感情（女性の場合）

相手	感情			
	「無礼」	「親しみ」	「別に」	「その他」
同性・同年配者への使用	4	71	16	5
同性・年長者への使用	77	5	5	8
同性・年少者への使用	6	56	29	4
異性・同年配者への使用	5	47	36	8
異性・年長者への使用	76	3	10	7
異性・年少者への使用	8	49	33	6
同性・同年配者による使用	1	71	22	2
同性・年長者による使用	5	60	31	0
同性・年少者による使用	48	16	20	12
異性・同年配者による使用	1	59	30	6
異性・年長者による使用	3	55	35	2
異性・年少者による使用	44	13	26	12
恋人への使用	2	72	17	5
恋人による使用	1	76	16	3
上司による使用	24	13	50	8

持ちに最も近い感情をひとつ選択することが求められた。ここでも回答の中に不備のものがあったので，全回答の合計が必ずしも同じにはならないことを断っておきたい。

女性回答者の場合の結果は表 4 に示されているが，自分が同性の同年配者，年長者，年少者に対して「呼び捨て」を用いた場合，感じる感情は同年配者に対する時に 74%が「親しみがわく」を選択し，次いで「別に何とも思わない」が 17%であったが，年長者に対して「呼び捨て」を用いることは「無礼である」が 81%であった。相手が年少者であった場合には，最も多いのは「親しみがわく」であり（59%），次いで「別に何とも思わない」が 31%であった。同年配者と年少者に関しては，「呼び捨て」を使うのは，相手に「親しみがわく」からこそであり，決して無礼なことではないと思っているが，年長者に対して「呼び捨て」を使うのはさすがに無礼にあたると感じていることになる。相手の年齢と感情の種類の関連は統計的に有意であった（$\chi^2(6)=192.77$, $p<.01$）。

では相手が異性の同年配者や年長者，年少者であれば「呼び捨て」を用いる場合には，どのように感じるのかを χ^2 検定したところ，年齢と感情の種類の間には有意な関連があることが明らかになった（$\chi^2(6)=165.32$, $p<.01$）。これは同年配者と年少者に対して「呼び捨て」を使う場合に同じような傾向があることを示し，「親しみがわく」が最も多く（年配者に対する場合が 49%で，年少者に対する場合が 51%），次に多いのが「別に何とも思わない」（年配者に対する場合が 38%，年少者に対する場合が 34%）という傾向であったこと，および年長者に対しては「無礼である」が最大で 79%であったことを反映している。

最も親しい関係である「恋人」に関しては，圧倒的に多くの人が「親しみがわく」を選択している（75%）。第 2 位は「別に何とも思わない」であるが，これは 18%に留まる。感情の種類によって選択数に偏りがあるかを χ^2 検定したところ，統計的に有意であった（$\chi^2(3)=133.25$, $p<.01$）。つまり，他の同年配者や年少者に対する場合と類似して，「呼び捨て」は，「親しみがわく」表現と受け止められているのである。

表 5　呼びかけ相手別「呼び捨て」行為についての感情（男性の場合）

相手	感情			
	「無礼」	「親しみ」	「別に」	「その他」
同性・同年配者への使用	0	6	18	0
同性・年長者への使用	21	1	2	0
同性・年少者への使用	0	3	21	0
異性・同年配者への使用	2	7	12	3
異性・年長者への使用	19	0	4	1
異性・年少者への使用	0	3	20	1
同性・同年配者による使用	0	7	17	0
同性・年長者による使用	0	5	19	0
同性・年少者による使用	17	2	2	3
異性・同年配者による使用	4	5	12	3
異性・年長者による使用	2	8	13	1
異性・年少者による使用	14	2	6	2
恋人への使用	1	10	13	0
恋人による使用	2	13	8	1
上司による使用	1	0	22	1

男性の回答者に関しては，回答者数が少ないためもあって「恋人」に対して「呼び捨て」を用いた時の感情の種類に偏りがあるかどうかの分析以外は χ^2 検定を用いることができない。参考のため，比率だけ見ていくことにする。結果は表 5 に示されている。

同性の呼びかけ相手を対象にした場合，同年配者と年少者に対しては「呼び捨て」を用いた場合に感じる感情は「別に何とも思わない」が最も多く（年配者で 75%，年少者で 88%），次いで「親しみがわく」（年配者で 25%，年少者で 13%）であった。女性回答者の場合には，年配者と年少者に対して同じような感情を感じるという点では類似の傾向があったが，それは「親しみがわく」という感情であった。男性回答者の場合には，それが「別に何とも思わない」であるので，「呼び捨て」のとらえ方に男女差があることが示唆されている。このような傾向は，異性の呼びかけ相手に対して「呼び捨て」を用いた場合の男性回答者の回答にも現れているので，男性回答者の場合，相手の性別に関わ

りなく，「呼び捨て」を使うのは，相手に「親しみがわく」からではなく，「呼び捨て」を使うことに「何とも思わない」からであるといえる。

男性回答者の「恋人」に対する「呼び捨て」の使用に関しては，その時感じる感情に偏りがあることが明らかにされている（$\chi^2(2)=9.75$, $p<.01$）。なお，ここでは「その他」の選択肢がなかったためにχ^2分析の自由度は2になっている。ここで最も多かった回答は「別に何とも思わない」であり（54%），「親しみがわく」も42%に達していたが，「無礼と感じる」は4%に過ぎなかった。これらの結果を見る限りにおいては，既に述べたように男性回答者の数が少なかったために参考に留まるが，男性の場合，「呼び捨て」を使い慣れているためか，自分がそれを使うことに特別の感情を喚起しない傾向があるといえよう。

自分が他者から「呼び捨て」された時の感情　自分が相手から「呼び捨て」された時にどのような感情をもつかについて，女性回答者の感情についての結果は表4に示されているが，相手の性別にかかわらず，同年配者と年長者から「呼び捨て」された時には「親しみがわく」が最も多く（相手が同性の場合には，同年配者が74%，年長者が63%で，相手が異性である場合には，同年配者が61%，年長者が58%），次いで「別に何とも思わない」（相手が同性の場合には，同年配者の場合には23%，年長者が32%，相手が異性である場合には，同年配者が31%，年長者が37%）であったのに対して，年少者から「呼び捨て」された時には相手の性別にかかわらず「無礼である」が最も多く（相手が同性の場合で50%，異性の場合でも46%），次いで「別に何とも思わない」（同性の場合で21%，異性の場合で27%）であった。相手が同性である場合のχ^2検定も，異性である場合のχ^2検定も統計的に有意であった（同性の場合が$\chi^2(6)=130.55$, $p<.01$; 異性の場合が$\chi^2(6)=113.42$, $p<.01$）。

ここでの結果と，既に述べたように，自分が「呼び捨て」を使った場合に感じる感情を総合すると，女性回答者の場合には相手が同年配者である場合には自分が相手を「呼び捨て」する場合にも，相手から「呼び捨て」される場合にも，ともに「親しみがわく」ことが多いが，相手が年長者である場合には，相手を「呼び捨て」することには無礼さを感じるものの，年長者から自分が「呼び捨て」される場合には「親しみがわく」ことが最も多く，双方向的に「呼び

捨て」を許容していることが伺われる。しかし，相手が年少者である場合，自分が相手を「呼び捨て」にする時には「親しみがわく」ことが多いが，年少者からの「呼び捨て」には「無礼である」ことが最も多いところから「呼び捨て」の許容性は一方向的であるといえる。

女性回答者が「恋人」から「呼び捨て」られた場合には圧倒的に「親しみを感じる」が多い（79%）。その次に多いのは「別に何とも思わない」であるが，これは17%であるので，圧倒的に多くの女性が恋人からの「呼び捨て」は肯定的に受容している。感じる感情に偏りがあるかどうかをχ^2検定したところ，統計的に有意であった（$\chi^2(3)=155.75$, $p<.01$）。既に述べたように，自分が恋人を「呼び捨て」する場合にも「親しみがわく」という回答が最も多かったことから，双方向的に「呼び捨て」を許容しているといえよう。

女性回答者が公的な関係において目上の存在である「上司」から「呼び捨て」られた時の感情としては，「別に何とも思わない」が53%と最も多く，次いで「無礼である」が25%であった（$\chi^2(3)=44.326$, $p<.01$）。相手が上司の場合にはやや厳しい見方をしているといえよう。

男性回答者結果は表5に示されているが，この場合も自分が相手を「呼び捨て」にする時の感情の場合と同じく，人数の関係から参考にするに留まるが，相手の性別に関わりなく，同年配者と年長者から「呼び捨て」された場合には「別に何とも思わない」が最も多く（同性の場合，同年配者で71%，年長者で79%であり，異性の場合には，同年配者で50%，年長者で54%），次いで「親しみがわく」（同性の場合，同年配者で29%，年長者で21%であり，異性の場合には同年配者で21%，年長者で33%）であったのに対して，年少者から「呼び捨て」された場合には最も多いのが相手の性別に関係なく「無礼である」であり，同性の場合で71%，異性の場合で58%であった。

既に述べた，自分が「呼び捨て」を用いた場合の感じ方では男性回答者は同年配者と年少者においては「別に何とも思わない」が最も多いという結果が得られていたことを考慮すると，相手が同年配者である時には「呼び捨て」を双方向的に問題とはしていないが，年少者の場合には自分が「呼び捨てる」ことは「別に何とも思わない」が，年少者が自分を「呼び捨て」することについて

は「無礼である」として許容しないことを示している。一方，年長者を「呼び捨て」することに関しては相手の性別に関わらず，圧倒的に多数が「無礼である」と述べていたが，自分が年長者から「呼び捨て」されることは「別に何とも思わない」とすることによって女性回答者ほど肯定的な受け止め方ではないが，許容していることが示されている。

男性回答者が「恋人」から「呼び捨て」されることにどのような感情をもつかについては「親しみがわく」(54%) が最も多く，次いで「別に何とも思わない」が 33%で，この両者で 87%に達しており，感じ方に一定の偏りがあることが明らかにされた（$\chi^2(3)=15.67$, $p<.01$)。この点については男性回答者も女性回答者と同じく肯定的に捉えていると思われる。

上司から「呼び捨て」られた時の感情的反応は一定の偏りを示すことが有意に示されたが（$\chi^2(2)=36.75$, $p<.01$)，「別に何とも思わない」が最も多い (92%) ことは女性回答者の場合と同じで，むしろより強い傾向を示したが，「親しみがわく」が全く存在しないことは明らかに女性回答者の場合とは異なっている。上司と自分との関係についての見方にも男性と女性の間には違いがあるものと思われる。

ここまで見てきたように，さまざまな相手に対する呼びかけ方にはそれぞれの関係に対応した違いが認められるし，「呼び捨て」というひとつの呼びかけ方に絞って，それを相手に使ったときに生じる感情と相手から「呼び捨て」を使われた時の感情を分析した結果，感じる主体の性別や相手の性別，また自分との年齢的な相対的関係性によっても違いが存在することが明らかになった。われわれは，呼称の中に相手に対する自分の見方や感情を込めて使い分けながら社会的関係を調整しているといえるのではないかと思われる。

引用文献

Feshbach, N., & Sones, G. 1971 Sex differences in adolescent reactions toward newcomers. *Developmental Psychology*, **4**, 381-386.

Knapp, M. L., Ellis, D. G., & Williams, B. A. 1980 Perceptions of

communication behavior associated with relationship terms. *Communication Monographs*, **47**, 262-278.

三島浩路　2003　学級内における児童の呼ばれ方と児童相互の関係に関する研究　教育心理学研究, **51**, 121-129.

岡本真一郎　2006　ことばの社会心理学［第 3 版］　ナカニシヤ出版

鈴木孝夫　1973　ことばと文化　岩波書店

西南学院大学人間科学部児童教育学科